

## 太平洋経済展望 2004 - 2005

- 太平洋経済協力会議 (PECC) 地域の経済予測

### 1. アジア太平洋地域の経済成長 04年中は加速持続、05年に緩やかに減速

- ・ アジア太平洋地域 (PECC加盟の19カ国・地域) の経済成長は、2003年には平均で3.6%伸び、2002年の3.0%を上回った。
- ・ 2004年の成長は、さらに加速して4.7%に達するが、2005年には4.4%へと緩やかに減速する。

#### (1) 主要国が成長を牽引

中国 成長持続

- ・ 2003年には9%を上回る成長。
- ・ マクロ経済政策の調整により、2004年には8%近くまで減速。
- ・ この成長率は、中国の持続可能な長期成長目標の範囲内。

日本：しっかりした成長軌道へ

- ・ 2003年には2.7%の成長。
- ・ 2004年、前年と同率か、わずかに高い成長。
- ・ 2005年にも2%台の成長が見込まれる。
- ・ 成長の源泉は輸出と企業の設備投資、それに持ち直した個人消費、にある。財政による景気刺激策ではなく、金融緩和政策が取られた結果。

米国 2004年、成長を加速

- ・ 米国経済は、2004年には加速し続け、4.7%の成長が見込まれる。
- ・ 2005年には3.8%に減速する見込み。
- ・ 景気回復はさほど力強くはない。財政政策は引き続き拡張を続ける。

#### (2) 東アジアでは力強い成長・ラテンアメリカでは成長加速

東アジア

- ・ 2004年には、東アジアでは、中国の8.2%成長に加えて タイ、ベトナムは7%台の成長見込み。
- ・ 他に東アジアの平均を上回る伸びが予測されるのは、香港、韓国、マレーシア、シンガポール。
- ・ 伸びが低いのは、日本の2.8%、フィリピン4.3%。

ラテンアメリカ諸国

- ・ 平均成長率は上昇を続け、2004年には2003年の倍以上となる。2005年も、ラテンアメリカは加速する。エクアドル、チリが牽引、メキシコは低め。
- ・ 中国、ニュージーランド、ペルー、フィリピンを除く、PEO域内のすべての国・地域で、2004年は2003年と比べると成長加速。

#### (3) インフレ率は安定

- ・ 東アジアでは、2004年はインフレ率が高まる (日本と香港は引き続きデフレ状態が続くが、デフレ率はずっと低いものになる)。

- ・ 東アジアで比較的インフレ率が高いのは、ベトナム、インドネシア、フィリピン。
- ・ ラテンアメリカでは、インフレ率が平均4%以下にまで低下し続ける。
- ・ PEO地域全体の平均インフレ率は、2004年が1.7%、2005年は1.8%。

#### (4)好調な貿易

- ・ PEO地域全体の輸出の伸びは、2004年に加速を続け、10%近くに達する。
- ・ 2005年には、輸出の伸びは落ちる。
- ・ 東アジアの輸出は、2003年は好調であった。東アジアの輸出の伸びは、2004年には2003年を下回るものの、少なくとも1%になる。中国の輸入ブームが主要な要因。
- ・ ラテンアメリカの輸出の伸びは、加速はしているが、8%を下回る水準で推移する。

## 2.経済見通しにおけるリスク要因

- ・ 予測に際しての主要なリスクは、これまでと同様、米国の経常収支赤字増大へこの PEO 地域がどのように対応するかという点。
- ・ その他のリスクは世界の商品市場、特にエネルギー市場にある。
- ・ 中国経済の動向にいつそう注目する必要がある、地域の貿易システムの展開も引き続き注目される。

### (1)持続可能か米国の経常収支

- ・ PEO地域の経常収支赤字合計は2001年には2,100億米ドル。2005年の終わりには、赤字幅は3,500億米ドルに達する。
- ・ 米国の経常収支赤字は、2001年には3,800億米ドル、2002年には4,640億米ドル、2003年には5,280億米ドル。2004年には、6,000億米ドルを超える水準、対GDP比で5%以上に達する。
- ・ 東アジアは経常収支は黒字であり、黒字幅は2001年の1,800億米ドルから2003年には2,800億米ドルへと増大、2005年にはさらに3,100億米ドルへと増加する。
- ・ ラテンアメリカは、約170億米ドルの赤字を記録する。
- ・ 東アジアの黒字が米国の赤字に資金を供給しているという側面がある。

### (2)商品市場

- ・ 商品価格は2003年を通じて上昇を続けた。中国の成長が牽引力。
- ・ 鉱物と金属の価格が上昇。特に最近、石油の価格が再び高騰、これは現在の中東事情に関連がある。
- ・ 商品価格が上昇すれば、PEO地域のインフレ率が高まるというリスクが生じる。

### (3)中国の成長

- ・ 中国の需要は、地域の成長と構造的変化の主要な牽引力。
- ・ 日本は2003年、中国への輸出を43%伸ばした。
- ・ 中国の経済展望におけるリスクは、その他地域に重大な影響を持っている。
- ・ ソフトランディングするだけの政策上の能力が中国にあるか。マクロ経済政策によるテコ入れは、市場メカニズムに完全には組み込まれておらず、依然として中央計画経済に一部頼っている。成長の鈍化が、急速な失速、すなわちハードランディングをもたらす可能性がある。
- ・ 長期的には、中国の成長率は8～9%の範囲になる見通し。

以上